

——身近な生き物と保全②——

保全ってなんだろう？

～生き物たちと人間の共生をめざして～

担当：信州大学 理学部 生物科学科
松本市庄内
自然農法国際研究開発センター農業試験場

谷津伸矢・五味壮健・近藤泰玄・藤山静雄
上条 慶子
藤田 正雄

信州で実際に行われている生き物の保全活動と研究について紹介します。

下のようなテーマを中心にパネルを展示し、生き物たちをお見せします。

○ ホタルの保全活動

みなさんはホタルを知っていますか？川や田んぼなど水のあるところに住んでいて、夜になると光るふしぎな虫で、とても人気があります。風流ですね。

でも、かつて身近にいたホタルは人が自然を開発するとだんだん住めなくなって、今はとても少なくなっています。さみしいですね。

ここでは、ホタルなど、かつては身近にいた生き物たちを守ろうとする取り組みを紹介します。

ホタルやカエルが住めない川は、本当にいい川なのでしょうか？

○ 千曲川の河原の生き物調査

長野市に流れている千曲川では、大水を防ぐために今年の冬に掘削工事が行われました。しかし河原に住んでいた生き物たちは冬の間環境が変わってしまい、大弱りです。

でも、春になると工事跡にもちゃんと生き物が姿をあらわしました。よかったですね。

しかし、よくみると去年までとはちがう生き物たちです。

なぜ、環境が変わると住んでいる生き物が変わるのでしょうか？

河原に前にいた生き物をまた呼び戻すにはどうしたらいいのか、研究しています。

○ しぜんのうほう
自然農法の畑

自然農法という言葉をしっていますか？殺虫剤、化学肥料などを使わずに、落ち葉や草木の堆肥で作物に栄養を与え、カエルやクモなどに害虫を食べてもらって作物を育てる農業のことです。

このような畑では、農薬を使っている畑よりもたくさんの生き物がすんでいます。

とくに土の中には、ミミズ、ヤスデなどの土壌動物といわれる生き物がたくさんいます。

ミミズ、ヤスデは土の中で何をしていますのしょう？

気持ち悪い？でもこの生き物たちがいることで、栄養豊かで健康な土になり、作物も元気になります。

ミミズは土の中で何をしていますのしょう？



左上、松本市庄内のホタル水路。

右上、ヘイケボタル。

左下、千曲川の河川敷に仕掛けられたトラップ。

右下、サクラミミズ。

